



実用新案登録願 (2)

(4,000円) 昭和 56.2月-8 日

特許庁長官 川 原 龍 雄 殿

1. 考案の名称
ロール紙支持装置

2. 考案者
神奈川県川崎市幸区柳町70番地
神奈川県川崎市幸区柳町70番地
トヨチヨシデンキ株式会社柳町工場内
東京芝浦電気株式会社柳町工場内
横 江 正 直

3. 実用新案登録出願人



住所 神奈川県川崎市幸区堀川町72番地
東京芝浦電気株式会社
代表者 岩 田 式 夫

4. 代理人

住所 東京都港区虎ノ門1丁目26番5号 第17森ビル
千 105 電話 03 (502) 3181 (大代表)
氏名 (5847) 弁護士 鈴 江 武 彦

55 014712

118056

万 式 録

明 細 書

1. 考案の名称

ロール紙支持装置

2. 実用新案登録請求の範囲

ロール紙の軸心部を貫通する心棒の両端部を、離間並設された第1、第2のホルダによって回転自在に支承するようにしたものである。上記第1、第2のホルダの上記心棒の端部を回転自在に支承する支持部を孔から構成するとともに、少くとも一方のホルダは、固定ベースと、この固定ベースに下端部を係合させ垂直状態から側代のみ倒れる状態に取替され、上記支持部を有するホルダ本体と、このホルダ本体が常時垂直状態になるよう付勢する付勢体とを具備し、構造としたことを特徴とするロール紙支持装置。

3. 考案の詳細な説明

本考案は、たとえばプリンタの出力記録用紙に使用されるロール紙を繰出し自在に支承するロール紙支持装置の改良に関する。

1.

118056

BEST AVAILABLE COPY

通常、この種ローレル紙支持装置においてはローレル紙の軸心部を貫通する心棒の両端部を離間並設された第1、第2のホルダによって回転自在に支承する構成となっている。しかしながら、従来のように心棒の両端部を回転自在に支承するホルダの支持部を単なる切欠溝から構成したものは、構成が簡単かつ安価で、ローレル紙の着脱等も容易に行えるが、反面、心棒の両端がホルダから外れ易く、特にダッシュケース等に納めて持運びをする場合などに外れる不便があった。そこで、心棒の少くとも一端を軸心方向に押込める構成としてホルダの孔に両端部を嵌合させることにより、不用意な外れを防止するものなどが開発されたが、構成が複雑かつ高価になり、しかも着脱操作がやりづらいといった問題を有している。

本考案は、上記事情にもとづきなされたもので、その目的とするところは、構成が簡単かつ安価でありながら、心棒が不用意に外れたりすることなく確実に支承でき、しかもローレル紙の

着脱操作が容易に行い得るローレル紙支持装置を提供しようとするものである。

以下、本考案を図示の実施例を参照しながら説明する。第1図はローレル紙を支承した状態を示すもので、図中1はローレル紙2の軸心部を貫通し両端部1a、1bをローレル紙2の端面から突出させた心棒であり、この心棒1の両端部1a、1bは第1、第2のホルダ3、4によって回転自在に支承されている。

上記第1のホルダ3は、矩形板体をL字状に折曲し、その水平板部をプリントの取付部6に取付けるための取付部5aとするとともに垂直板部の中央に、上記心棒1の一端部1aが嵌入し得る透孔からなる支持部7を形成したホルダ本体5を有した構成となっている。

また、第2のホルダ4は、第2図に詳図するよう固定ベース8、この固定ベース8に下端部を係合させ垂直状態から外側にのみ倒れる状態に取着されたホルダ本体9、およびホルダ本体9が常時垂直状態になるよう付勢する付勢体

BEST AVAILABLE COPY

としてのスプリング10とを有した構成となっている。上記固定ベース8は矩形板体の両端部をU字状に折曲して取付部8a, 8bを形成するとともに水平板部に係合部としてのスリット11および切起し片からなるスプリング係止部12が形成されている。また、ホルダ本体9は、上端部に折曲部からなる摘み部9aが形成されているとともに下端部にやや幅狭で上記スリット11に挿入係止できるようなU字状の係止片13が連設されている。さらに、中央部には上記心棒1の他端部1bが嵌入し得る支持部14および切起し片からなるスプリング係止部15が形成されている。上記支持部14は上下方向が長寸となる長孔16を形成し、この長孔16の下端側に位置して支持舌片17を突出させることにより形成されている。

つぎに、第2のホルダ4の組立手順を説明する。まず、ホルダ本体9を斜めに倒した状態としてこの下端に連接された係止片13の水平片部13aを固定ベース8のスリット11内に挿

4

入し、このうちホルダ本体9を内方に回転させて垂直状態に起す。このとき、係止片13の水平片部13aの上面とホルダ本体9の下端支持面9b, 9bとによって固定ベース8を挟んだ状態となり、ホルダ本体9の上下方向および水平片部13aによって直角以上の動きが規制される。さらに、前後方向および左右方向の動きはスリット11の寸法を予め上記係止片13に合わせて設定することにより規制され、ホルダ本体9は第1図の2点鎖線で示すように外側に倒れる方向にのみ動き得る状態となっている。つぎに、ホルダ本体9のスプリング係止部15および固定ベース8のスプリング係止部12にスプリング10の両端を係止し、ホルダ本体9が常時垂直状態になるよう付勢することになる。

しかして、このような第1、第2のホルダ4, 4および心棒1からなるローラ支持装置によるローラ紙2の着脱操作手順を説明する。

まず予めローラ紙の軸心部に心棒1を挿通しておき、第2のホルダ4のホルダ本体9をスプ

5

BEST AVAILABLE COPY

リング10の付勢力に抗して第1図の2点鎖線

位置まで倒し、この状態で心棒1の一端部1a

を第1のホルダ3の支持部7に対向させて押込

む。つぎに、心棒1を水平状態にして第2のホ

ルダ4の支持部14に心棒1の他端部1bを対

向させ、この状態で第2のホルダ4を内方に起

して心棒1の他端部1bを第2のホルダ4の支

持部14に挿入してから手を離す。そして、第

2のホルダ9をスプリング10の復元力によつ

て垂直状態に保持させ第1図の実線で示すよう

に心棒1の両端部1a, 1bを第1、第2のホ

ルダ3, 4の支持部7, 14によって回転自在

に保持し、ロール紙2を繰出し自在に支承する

ことになる。

また、ロール紙2を取外すときには第2のホ

ルダ9を第1図の2点鎖線位置に倒して心棒1

を取外せばよい。

なお、上述の一実施例において、第2のホル

ダ4のホルダ本体9のみ外側に倒せる構成とし

たが、第1のホルダ3のホルダ本体5も外側に

倒せる構成としてもよい。

その他、本考案は上記実施例に限らず本考案

の要旨を変えない範囲で種々変形実施可能など

とは勿論である。

以上説明したように、本考案によれば、構成

が簡単かつ安価でありながら、心棒が不用意に

外れたりすることなく確実に支承でき、しかも

ロール紙の着脱操作が容易に行い得るといった

効果を奏する。

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例を示すもので、第1

図は概略的構成図、第2図は要部の分解斜視図

である。

1…心棒、1a…1の一端部、1b…1の他

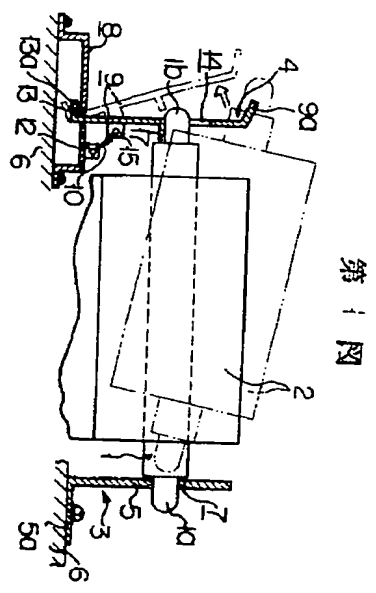
端部、2…ロール紙、3…第1のホルダ、4…

第2のホルダ、7…支持部(透孔)、5…ホル

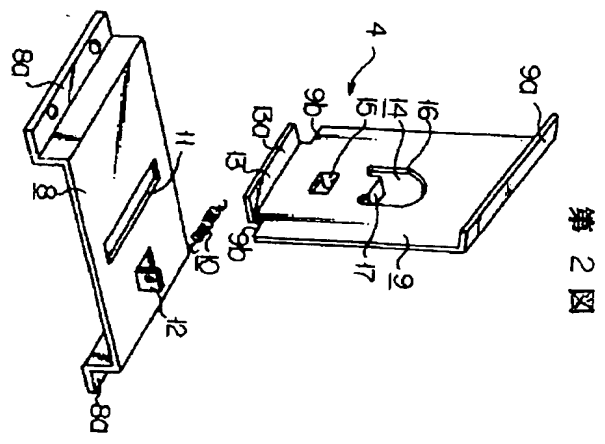
ダ本体、8…固定ベース、9…ホルダ本体、

10…スプリング(付勢体)。

BEST AVAILABLE COPY



第 1 図



第 2 図

5. 添付書類の目録

- | | |
|----------|----|
| (1) 委任状 | 1通 |
| (2) 明細書 | 1通 |
| (3) 図面 | 1通 |
| (4) 願書副本 | 1通 |

6. 前記以外の考案者、実用新案登録出願人、代理人

代理人

住所 東京都港区虎ノ門1丁目26番5号 3117番ビル
氏名 (8461) 弁護士 村 松 貞 男
住所 同 所
氏名 (6881) 弁護士 坪 井 謙

5079Y088 1
7910058
118056
出願人 東京芝浦電気株式会社
代理人 鈴 江 武 彦

118056